

富士川町男女共同参画推進委員会 会議録

1. 会議の名称 第2回富士川町男女共同参画推進委員会
2. 会議日時 平成30年9月25日（火）午後6時から午後7時15分
3. 開催場所 富士川町役場 1階会議室
4. 出席者 委員6名（欠席者2名）
役場職員 35名
5. 傍聴人数 0名
6. 内容 男女共同参画推進事業の取り組み発表
キヤノンファインテックニスカ株式会社
『男女問わず働きやすい職場風土づくり』

《会社概要》 設 立：1953年12月14日
従業員数：1757名（増穂事業所 約820名 男女比 8:2）
（国内）

《会社風土》 フラットな社風で働きやすい環境
・社員同士役職で呼ばない。（〇〇さん）
・若手でもいろいろな仕事を任せてもらえる。
・休みが取りやすい。

《女性活躍推進の必要性》
少子高齢化に伴う大幅な労働人口の減少は、企業にとってリスクが大きい。国際的に見ても、女性管理職比率が高い国は、いずれも労働生産性が高い。女性が活躍するためには、生産性を重視した働き方への改革が必要。

≪「男女問わず働きやすい職場風土づくり」への取り組み≫

〔1〕活動チーム発足の背景

社長から、「女性の活躍は、組織の活性化、生産性向上において極めて重要なことであり、今後の企業成長には必要不可欠である。女性活躍推進チームを発足し、女性が活躍できる環境作りを図る。」というメッセージのもと発足に至る。

チーフ：役員

メンバー：4名（総務、開発、営業、製造から各1名）

オブザーバー：人事部門管理職 2名

活動：定例会（月1回）、アンケート実施、資料作成、講演会開催など

〔2〕目指す姿

女性が活躍できる環境とは、どんな環境なのか、メンバーで話し合った結果、女性だけが優遇され特別視されるものではなく、全社員が働きやすい職場が女性も働きやすい職場ではないかという結論になり、『男女問わず働きやすい職場風土づくり』を目指すこととなる。

〔3〕取り組み内容

1.経営トップのメッセージ

「働きやすい職場環境の実現に向けて」というテーマが発信され、時間外労働の削減、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に取り組む旨を周知。

2.管理職の意識改革

管理職と女性社員にヒアリングを行い、現状の把握を行う。

①気づきシートの導入（管理職向け）

パソコンに「言動・行動に関するチェック」画面を表示させ、行動を振り返る。

②管理職向け講演会の開催および参加

↓

意識だけでなく、行動にも変化が見られるようになった。

3.女性のキャリア意識の醸成

アンケート調査を行い、現状の把握を行う。

①県・市町などが開催するセミナーへの参加

②経営幹部との座談会の実施

※座談会での意見から、短期間勤務者だけの製造グループを導入。

↓

座談会を行うことにより、現場の声が届き、取り組みとして実現した。

信頼やモチベーションのアップに繋がっている。

今後、研修の実施やキャリアシート（自分のキャリアについて考える場を設ける。）の導入を行う予定。

4.働き方改革

管理職と社員にヒアリングを行い、現状の把握を行う。

① 時間外労働削減のアプローチ

時間外労働の多い部署に取り組んでもらう。

② 時間管理に関する外部セミナーへの参加（対象：管理職）

↓

参加した管理職全員が「業務への取り組みなどを改善した」と回答しており、意識と行動の変化が見られた。

〔4〕 今後の展望

1.気づきシート（管理者向け）を一般向けにも実施

2.短時間勤務者だけの製造グループ「Inclusion Cell」（インクルージョン セル）の進化

3.男性育児休暇の更なる促進

4.育児・傷病・介護休業後の職場復帰プログラム導入検討

〔5〕 その他

「男女問わず働きやすい職場風土づくり」への取り組み活動を推進していくにあたり、大切にしている思いは、『革（か）えることへの熱い思いと成し遂げる強い思い』

以 上